



第61号
令和2年1月発行
連合自治会広報部

新春特集

『あさひが丘団地の将来展望』

第2弾

明けましておめでとーございます。みなさまには健やかな新年を迎えられたことと存じます。さて、前号「第60号記念誌」の特別企画「誌上座談会」で取り上げた「あさひが丘団地の将来展望」の続編をお届けします。

「あさひが丘」を取り巻く諸問題をいかに乗り越え、団地の将来へどのように繋げるかが大きな課題となっております。これに関して、まず、尾田豊機連合自治会長に、山積する諸問題の中で「今年の重点目標」に的を絞って所信を述べていただきます。

今年の重点目標

あさひが丘連合自治会長 尾田 豊機

あけましておめでとーございます。

あさひが丘連合自治会員の皆様には



今年の重点目標を述べる
連合自治会長の尾田豊機さん

益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

旧年中は、連合自治会の行事や活動にご理解あるご支援ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

進む少子高齢化と人口減少

人口減少

あさひが丘団地への入居が始まり44年が経過した今、少子高齢化と人口減少が急速に進んでいます。

昭和最後の年の日浦小、中学校の児童生徒数は約2100人で、近隣公園の主役は元気に遊ぶ子どもたちでしたが、平成最後の年には、65歳以上の

高齢者が約2900人となり、近隣公園の主役はグラウンドゴルフやウォーキングを楽しむ高齢者となりました。

問題解消へ向けて

このような状況の中で、団地内では様々な分野で問題が山積しております。これに対処するため次の5項目について重点的に取り組みます。

- (1) 高齢者の独り暮らしや要援護の方々への声掛けと見守りなど、高齢者見守り事業の取り組みを具体化し、活動を開始します。
- (2) 空き家、空き家予備軍への対応は、空き家対策を含めた団地まち起しのワークショップと勉強会を開催し、空き家サポーターの養成に努めます。

団地に入居して6年目の若手、杉本憲五さんに「あさひが丘に期待すること」、長らくこの団地に住んでおられる岸本忠勝さんには「我があさひが丘を思うこと」題しておふたりの意見を伺いました。杉本さんにはQ & A形式で取材しました。

あさひが丘に期待すること

9丁目在住 杉本 憲五

Q:「あさひが丘」に入居されたのは、いつですか？

A: 2013年の9月です。

Q:「あさひが丘」を選ばれた理由は何ですか？



あさひが丘に入居して6年目の杉本憲五さん

- (3) 路線バスの減便対策は、「ハッピーバス停プロジェクト」や「バスに乗ろう企画」を中心にバスの利用促進を図ります。
- (4) 交通事故防止のために、運転免許証を返納する高齢者に対し、バス利用のための助成を要請します。昨年は10月に広島市長へ要望書を提出しました。
- (5) 日浦地区から可部地区への道路整備は、新安佐市民病院への直通バス路線ルートの道路拡幅に向けて尽力します。

団地内の住民の皆様が、安心安全な暮らしが出来るようなまちづくりに取り組んでまいります。

皆様方のご支援ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

周囲が見守ってくれる

A: もともと妻と長男の3人で東京に住んでいました。子どものこともあって、7年前に安佐南区のアパートへ引っ越しました。当時、2人目の子どもの出産を控えておりまして、これからのことを考えると、妻の実家(あさひが丘6丁目)に近いところに住まいを構えることがよいと考えました。

Q: 「あさひが丘」に住むことで何か期待されるものがあつたと思います。

A: そうですね。「あさひが丘」は古くからある団地なので雰囲気落ち着いていますね。後から分かったことですが、顔見知りの方が何名かおられます。実家に近いところを選んだ結果、たまたまこうした「周囲が見守ってくれる」環境に恵まれて満足しています。これからますます、こうした環境であり続けることを期待します。

意外と多い30代世代

Q: 実際に「あさひが丘」に住んでみて、入居された当初の印象と異なることがありましたか?

A: わたしたちと同じ世代はかなり少ないと思っていたのが、実際は30代世代の若い家庭が思ったよりも多くおられます。子どもの同級生も

いて、よい意味で、当初の印象と違いました。わたしは不動産関係の仕事をしているので気付くのかもしれませんが、建て替えや建て売り住宅が増えた気がします。

若手と高齢者の交流を

Q: 少子高齢化をはじめいろんな問題がありますね。この団地において「これが問題だ」と感じることはありませんでしたら、教えてください。

A: ひどい暮らしの高齢者が多いので、もつと周りのひとが声掛けやケアをするなど、できればいいなと思います。空き家の問題も気掛かりですね。

Q: その問題をどう乗り越えたらよいと思われませんか?

A: わたしは土・日曜日が仕事なので「あさひが丘」の団地で行われるイベントに参加できませんが、若い人と高齢の方が一緒になって取り組める行事があればいいですね。たとえば学校に高齢者を招くようなイベントを催すとか。子どもたちと触れ合うことで高齢の方はパワーをもらえます。

団地のよさを

もつとアピール

空き家の問題に関しては「あさひが丘」のよさを若い世代にもつとア

ピールしてはどうでしょう。保育園や幼稚園、小学校、中学校もありまして、コンビニも大きくなりました。動物園もあります。上安から10分そこそこの距離ですが、不動産価格は上安などに比べて安価だと思っています。より少ない経済負担で家を手に入れられる。これは若い世代にとって魅力的なことですね。

Q: 最後に「あさひが丘」は将来どんな団地になつて欲しいですか?

A: 高齢の方と若い世代が融合する活気ある団地になつて欲しいです。

我があさひが丘を思う

9丁目在住 岸本忠勝



我があさひが丘を語る岸本忠勝さん

昨年7月発行の連合自治会会報を拝読し、歴代の会長さんたちによる、今日までの団地の生活基盤作りへのご尽力に対して敬意を表する次第です。そんな折、原稿依頼を受けましたので、浅学非才(せんがくひさい)の身を

ね。子どもが増えれば、学校の生徒も増えます。学業もスポーツも活性化します。それを「あさひが丘」の外へアピールすれば団地の人口増に繋がります。高齢者と若い世代が共存する団地「あさひが丘」の将来はそうあつて欲しいですね。



承知のうえ僭越(せんえつ)ながら思うままを記してその任を務めさせていただきます。

進む少子高齢化

私は35年前にあさひが丘を永住の地と決めました。雪の日の通勤には閉口もしましたが、地域の働き盛りのみなさんの温かい交流と支えにより、不安なく日常生活へ溶け込みました。

わが国は人生百年時代という一方で、子どもの出生が少ないために人口減少と少子高齢化が進んでおります。我があさひが丘では、40数年を経た生活住宅団地ゆえに、人口の大きな変化を余儀なくされております。

特集号や以前のアンケート結果で示されたように、住民の数は年ごとに

減少するなかで高齢者は増え続け、近い将来には2人に1人が高齢者と予測されており、高齢の夫婦家族と1人住まいの多さと併せて、空き家問題も大きな課題となりました。

活性化に向けて

住民の老いに加え、情報技術の伸展により生活の個人化が強まることで、地域住民同士の交流の希薄化、共同参加意識の弱体化などから、人任せ体質が増長される傾向にあります。

こうした生活環境の変化を座して待つわけにはいかないでしょう。今こそ事態を共有し、共同意識を高めながら我が団地の活性化に向けて奮起する時ではないでしょうか。

長年住み慣れると団地の良さが当たり前に思えます。今一度良さを再認識し更なる取り組みを行うことが大切になります。

あさひが丘には良いところがたくさんあります。①自然環境がよく周りの景色に季節感を覚えます。②災害防止対策が進み公園や道路の整備に安心・安全感が高まります。③主な生活関連施設が身近にあり便利です。④バスが定時運行され停留所も多くあります。⑤自主運営の団地関連組織が確立され多くの行事があります。⑥保育園、小中学校、児童館が地域と一体化しています。⑦多くの元気な高齢者が

いろんな行事で活躍しています。

今後とも良いところを守り強めるために、私たちの日常の行動が大事になります。

生活環境の変化に対処し更なる活性化を図るため、共同参加意識の高揚による「自助と共助」の連帯強化が大切になります。

心のやさしい団地目指して

そこで、各地域の意思疎通を深めるために、①人数が少なくても集まる。

日浦小学校長の竹下和伸さんには、児童を育む目線での将来展望について述べていただきました。

子どもたちの未来

日浦小学校長 竹下和伸

地域の皆様には、日頃より本校教育にご理解ご協力を賜りまことにありがとうございます。

来るべき

新しい社会に備えて

皆様は「ソサエティ5.0」という言葉をお聞きになったことがありますでしょうか。人間中心の社会は、これまで、狩猟社会、農耕社会、工業社会、そして現代の情報社会と変化してきました。「ソサエティ5.0」は、次に我が国が目指すべき未来社会の姿として提唱されています。簡単に紹介すると、

②多世代と交流する。③特にお父さんの参加を促す。④考えると共に行動するなどにより、地域の活力が向上し、各運営組織の連携強化に繋がると思っています。

厳しい時こそ、心の通い合いを深めるチャンスです。日浦小学校の教訓「自主協力」で、ラグビー日本代表チームが教えてくれた「ワンチーム」で、環境と心のやさしいあさひが丘を目指しましょう！

児童を育む目線での将来展望について述べ



子どもたちの未来を熱弁する
日浦小学校長の竹下和伸さん

家電や機器のインターネット接続や人工知能などの最新テクノロジーを活用した便利な社会が「ソサエティ5.0」だそうです。

未来といっても、10年後、20年後、つまり、今の子どもたちが大人になったときの社会の姿のことです。その社会では、技術革新が急激に進むことによ

り、今ある職業の多くが、ロボットや人工知能に取って代わられるであろうと言われています。また、その代わり人間がすべき新しい職業が生まれるとも言われています。急激に変化する社会の中で、子どもたちは生きていかなければなりません。

来たるべき新しい社会に備えて、子どもたちが学校で身に付けるべき力も変化します。そのために、来年度から小学校では英語の授業が増えたり、教科書が新しいものになったり、プログラミング学習という新しい内容が入ったりと目に見える変化があることはニュース等で紹介されているところです。

重要性増す地域との関わり

地域との関係については、新学習指導要領の中に、社会との連携及び協働によりこれからの時代に求められる教育の実現を図ることを目指す社会に開かれた教育課程が重要であることが述べられています。

子どもたち一人一人の力を伸ばしていくことは、教職員をはじめとする学校関係者のもとより、家庭や地域の方々を含め、子育てサークルやスポーツ少年団、青少年団体など様々な立場から子どもたちに関わる全ての大人に期待される役割として取り組んできました。これからの時代は、ますます

す地域の役割が重要になってきます。
現在子育て中のPTAの方や子育てを終わられた世代の方々が様々な地域活動の場に積極的に参加するよ

わたしたちの団地「あさひが丘」が抱える大きな課題のひとつとして「空き家問題」が指摘されました。どのような取り組みがなされているのか、「まち起こし推進部」を中心とした活動を紹介します。

空き家問題の解決にむけて

まち起こし推進部長 佐々木 薫

空き家の現状把握

少子高齢化の進むあさひが丘団地では、とりわけ空き家問題の解決は喫緊の課題です。この問題への取り組みは安佐北区役所とも連携して進めており、過去2年間、講師を招いて「空き家問題」解決のための講演会や相談会を開催しています。そのため個々の意識は高まったものの、団地全体の動きにつながっていないのが現状です。そこで今年度は、団地内の「現在空き家になっている住宅」、「今後空き家となる可能性のある住宅」などの現状を具体的に把握し、解決の手立てを考えていくことにしています。

問題は「隠れ空き家」

あさひが丘団地は、自然環境に恵まれ、保育園、幼稚園、小中学校、児童館、公民館、近隣公園、コープビルホール

うになることで、地域一体となった子どもを育てる活動が盛んになることを願っています。

の教育文化福祉施設や、交番、医療、商業施設が徒歩圏内にあり、子どもから高齢者まで安心して暮らせる団地です。そこで空き家ができて、入居者を迎え入れる準備さえできていけば入居される状況にあります。問題は住む方が居られないにもかかわらず家財道具などがそのまま、倉庫状態になっている、いわゆる「隠れ空き家」の存在です。

親が亡くなったたり、施設に入所され

木村さんに瑞宝双光章

11区にお住まいの木村博之さん（72歳）が瑞宝双光章を授与されました。



瑞宝双光章を授与された
木村博之さん

長年にわたって広島県警の職に従事し、功労を積み重ねたことが、このたびの栄誉となりました。

たりして、実際にはだれも住んでいないし、今後も住む予定がないのに、なかなか家財や遺品を処分することが出来ず悩んでいる親族の方も多いのではないかと思います。

居住者自身が元気づけに、家財の整理をしたり、処分の方法を親族と話し合ったり、書き残しておいたりすれば親族の方も安心して処分でき新しい入居者を迎えることができると思います。

そこでまち起こし推進部では、今後諸団体と連携して家や家財の処分方法などについて親族に伝える方法の学習会を開いたり、空き家問題を相談できる人材を育成したりするなどの取り組みを進めたいと考えておりますので、ご協力をよろしくお願いいたします。

令和元年（2019年）5月31日、皇居において天皇陛下からお言葉を頂戴したときの心境を「天皇陛下に拝謁し光栄に思いました。皆さんが行けないところへ行かせていただき、有難い気持ちでいっぱいです。」と語ってくださいました。

事務局報告

令和元年度の取り組み

令和元年度の連合自治会の主催行事は、好天に恵まれて滞りなく実施することができました。多くの皆様にご支援・協力いただきましたことを紙面をお借りして感謝いたします。

主な行事は、懇親会（5月17日）、グリーンキャンペーン（第1回6月2日・第2回11月10日、納涼大会（8月3日）、運動会（10月6日）、忘年会（12月6日）、あさひが丘音楽祭（12月21日）でした。

このほか、敬老祝賀会（9月15日）、神楽公演（12月8日）、とんと祭り（1月12日）、ふれあい講演会（2月1日）などの行事に、連合自治会として後援を行いました。

広報誌発行

あさひが丘連合自治会広報部

電話 838-2568

部長 小笠原 優
連合自治会事務局

